

# 1. 分科会活動報告書 審査基準および審査結果

## 1. 1. 活動報告書審査員および審査基準

ソリューション研究会役員会が審査員となり、下記の観点から審査し、優秀賞受賞対象となる活動報告書を選定しました。

1. 研究活動の反映： 分科会の研究プロセスが反映された内容であること。
2. 研究内容の深堀り度： 様々な観点からアプローチされているとともに、研究内容がきちんと深堀りされている。
3. 合理性、説得力： 分科会の主張や結論に裏付けがあり、その主張や結論に合理性や説得力があること。
4. 貢献度、有効性： 成果物が、実務に役立つことから、会員企業に対する貢献度が高い。
5. 表現力： 文章が読みやすく、まとまりがあり、論旨がはっきりしているとともに、図表の使い方や見た目の表現力に優れている。

## 1. 2. 審査プロセス

上記に示した評価基準を以下の採点表により各項目ウェイト付けし、各地区役員が、S（5点）、A（4点）、B（3点）、C（2点）、D（1点）でその地区の活動報告書を採点しました。審査員の総得点を参考に、地区ごとに優秀賞および特別賞が決定されました。

評価： S(5点)、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)

重み付け： ①～⑤すべて4とした。

ウェイト	評価項目	分科会1					分科会2						
		S	A	B	C	D	点	S	A	B	C	D	点
4	① 分科会の研究プロセスが反映された内容であること						0						0
4	② 様々な観点からアプローチされているとともに、研究内容がきちんと深堀りされている						0						0
4	③ 分科会の主張や結論に裏付けがあり、その主張や結論に合理性や説得力があること						0						0
4	④ 成果物が、実務に役立つことから、会員企業に対する貢献度が高い						0						0
4	⑤ るとともに、図表の使い方や見た目の表現力に優れている						0						0
	合計得点						0						0

### 1. 3. 審査結果および総評

#### ▼全国 最優秀賞

##### ○経営の見える化のための最適な仕組み作り 分科会（西日本）

「経営の見える化」というと、通常可視化をメインにして議論をするのだが、この分科会では経営者のタイプによっては単純な可視化だけではなく、数値そのものを見せる方が効果的な場合もあり、「見る人がどんな人かという分析も必要だ」と提言している点がユニークだ。戦略ピラミッドや稲盛氏の能力×熱意×考え方という理論などを取り入れながらも、分科会としてのオリジナルな考え方にまとめている点で非常によくできている。特に随所にとりいれている図解資料がわかりやすく、大変よみやすい論文に仕上がっている。

#### ▼東日本

##### ○組織活性化につながる組織論再考 分科会（活動報告書 優秀賞）

七人の侍を観ていればさらに理解が深まったのかも知れないが、組織活性の要因を「リーダーシップ」「モチベーション」「チームワーク」に分類しそれぞれ体系的にうまく説明できている。特にストーリー進行の過程で百姓たちのモチベーションが、マズローの5段階の上位へと移っていきゆく過程がうまく説明できており、企業内でただ危機感をあおるだけの動機付けでは人は動かないということが実感できた。

##### ○Web2.0から3.0へ(Bチーム)分科会（プレゼン賞）

2007年から継続しているWEB系分科会の成果を踏まえた集大成的な成果になっている。継続的な研究の中で培われたものに新しい内容を組み込み、非常に役に立つ報告書になっている。特にセマンテックWEBやメタバースといったトレンド用語をうまく概念的に説明しており、それぞれの技術への造詣の深さを感じた。分科会発表会のアンケート結果をもとに、プレゼン賞に決定した。

##### ○全社的危機管理(ERM)分科会（活発な分科会賞）

数多くのデータと論証が掲載されており、まるで専門家による白書のような立派な報告書だと思う。それぞれの論旨も充実しており、参加者の高い見識を伺い知ることができる。会員企業の理解を促進し、説得力をさらに向上させるために、成果や導入指針などを、より分かりやすくさせる工夫があるとお良かった（サマリなど）。

#### ▼西日本

##### ○システム開発の品質向上策 分科会（プレゼン賞）

「非機能要求」というものが良く理解でき、「非機能要求」の入門書としても大変すぐれた内容に仕上がっている。事例を交えて考察されている点がさらに理解・実感できる内容になっており、システム開発者に「非機能要求」の重要性を痛感させる。分科会の運営にも工夫をされており、活発に活動をされたことが伝わってくる内容だった。分科会発表会のアンケート結果をもとにプレゼン賞に決定した。

##### ○Webサイトのマーケティング(eマーケティング)分科会（実践賞）

発表会のサブタイトルの通り、「とにかくやってみた」という姿勢と行動力は素晴らしい。オリジナリティの点では随一の内容。やってきたこと、やってきて感じたことを、そのまま素直に論文にしている。そういう意味ではわかりやすい論文だが、深みに乏しいのが惜しい。マーケティングの知識があまり無かったメンバーが、僅か1年でこれだけのことを実行し、気づきを得たということは評価に値する。

#### ▼中日本

##### ○DB設計の理論と実際 分科会（活動報告書 優秀賞）

DB設計の概念→設計の手順→事例(モデル)による設計まで、しっかりと手順を追って進めたことを評価したい。また、DB設計の未経験者を含め、メンバー全員の知識を引き上げることに意を尽しており、「全員で研究する」という目的は達成したと考える。これは大きな成果ではないだろうか。SEとなるための知識やノウハウなど、教育方法などまでアプローチできたら、さらに良かった。

##### ○システム開発・保守の品質評価とコスト低減 分科会（プレゼン賞）

システム保守において、「引継ぎ・継承不足」がシステムの品質低下と稼働後のコスト増加になっている点を捉えて、研究会活動を行ってきており、実際のメンバーから出てきた事例をもとにやっている点を評価したい。ただし、上流工程でやるべきことをもう少し明確にするとさらに良かったと思う。発表会のアンケート結果に基づきプレゼン賞に決定した。

##### ○【基礎】オープンソースを実際に使ってみよう 分科会（基礎コース 特別賞）

OSSをOS、オフィスソフト、メーカーの3つのグループで研究し、各々結論できたことは良かった。各企業での今後の導入検討時で参考になると思う。欲を言えば、OSSへの移行に関して課題・コスト、運用時での考慮点(ユーザおよびIT要員への教育方法など)に突っ込んだ議論ができていれば、導入検討時での評価もしやすくなったと思われる。